

研究課題：映像制作を用いた人文学的教育実践の探究

本研究の目的はゼミ横断的な人文学的教育実践の探究であり、上田ゼミ、長谷川ゼミ、中山ゼミ、宇野ゼミが協働し、教員の指導のもとで映像を制作・公開するものである。本研究の具体的な到達目標として、(1) 学生による映像作品の完成・公開、(2) 人文学部が活用できる映像制作環境の整備、の二点が挙げられる。(1)については、宇野ゼミ、中山ゼミの協力のもと、上田ゼミが映像作品を完成させ、長谷川ゼミが合評会を開催することによる、ゼミ横断的な人文学教育を実践するものである。(2)については、これまでの共同研究で整備された映像制作機材を、人文学部の限られた条件のなかで継続的に、かつ人文学部全体の教育資源として活用するための方法を探究するものである。この二つの到達目標にもとづき、今年度の計画を遂行した。

(1)については、2020年度の研究推進費採択課題「映像制作を用いた人文学的教育に関する基盤整備」、2021年度の同課題「映像制作を用いた人文学的教育に関する整備発展」を継続、発展させたものである。上田ゼミでは、4年次生が映像3作品『星を見に行こうぜ』（藤木岳監督、4分）、『二輪三脚』（藤永颯斗監督、4分）、『My Hometown ～HYOGO～』（用免彩音監督、3分）を完成させ、長谷川ゼミと共催で2023年12月20日に合評会を開催した。また関連して、中山ゼミにおいて12月17日から20日にかけて、小原宣之氏による学生演劇「アタシノアカシ」台本創作コメント、演技指導および上演後コメント等の指導がおこなわれた。宇野ゼミにおいても、公開録音演奏会が12月5日に開催され、一部の録音が上田ゼミの制作映像で音源として使用された。

(2)については、これまでの共同研究で整備され、上田ゼミを中心に特定のゼミに限って使用されてきた映像制作機材を、どのように人文学部全体の教育実践に拡大して活用できるのかという方法を研究した。具体的には、複数の授業で同時に利用できるよう映像制作機材の拡充を進めるとともに、「芸術文化実践 IIB」等の人文学部の専門科目での幅広い活用を図るため、他大学の教育実践に関する事例研究をおこない、その成果にもとづいて、学生がオンラインで編集室や機器等を予約利用できる管理環境を整備した。

このような共同研究の成果により、(1) 学生による映像作品の完成・公開、および (2) 人文学部が活用できる映像制作環境の整備、という当初の到達目標は、おおむね達成できたものと評価される。